様式第10号（第５条関係）

２０２４年　１月３０日

学位論文審査並びに最終試験結果報告書

大学院歯学研究科長　　殿

主査　村田 勝
副査　永易 裕樹
副査　吉田 光希

今般　島谷真梨　様にかかわる学位論文審査並びに最終試験を行い下記の結果を得たので報告する。

記

1　学位論文題目

透明化技術を用いた扁平上皮癌の骨破壊と骨浸潤のイメージング解析

2　論文要旨　　別添

3　学位論文審査の要旨　　別添（様式第 12 号）

4　最終試験の要旨　　別添（様式第 13 号）

以上の結果　島谷　真梨　様は、博士（歯学）の学位を授与する資格のものと判定する。

様式第12号（第５条・第13条関係）

学位論文審査の要旨

主査　村田　勝　印
副査　永易　裕樹　印
副査　吉田　光希　印

氏　　名　島谷　真梨

学位論文題目　透明化技術を用いた扁平上皮癌の骨破壊と骨浸潤のイメージング解析

本学位論文（2023年11月1日提出）の主査と副査が11月18日に決定され審査を開始した．

12月4日リハビリテーション学部会議室において，石井教授(口腔生理学)同席のもと島谷院生と面談討議会がなされた．学位審査員３人から提出論文に対する質問・助言がなされ，25分間議論した．査読（ラウンド１）のメジャーコメントはヘマトキシリン・エオジン染色組織標本の必要性と用語の定義であった．

再提出論文の再査読（ラウンド２）結果を2024年1月9日に渡した．永易先生からは受理，そして吉田先生からは追加すべき文献や誤字などが指摘され，以降の修正論文は主査に一任するとのコメントがあった．緒言と議論のbrush up が特に必要であり，再々査読（ラウンド３）では主査村田と対面で文法の誤りや表現を修正すると共に骨リモデリングに関与する細胞群と組織酵素について口頭試験が実施された．島谷　真梨 院生は，審査員の助言をもとに論文を的確に修正できた．

本論文は，癌細胞による直接的骨破壊の可能性を組織学的に証明した点に新規性があり，島谷 院生は骨の科学に関する十分な知識を得ているので，学位授与に値すると判断した．

以上のプロセスを経て，令和6年(2024年)1月30日本学学位論文に相当するものと判断して，審査を終了した．

様式第13号（第５条・第13条関係）

最終試験（学力の確認）の要旨

主査　村田　勝　㊞
副査　永易　裕樹　㊞
副査　吉田　光希　㊞

氏　　名　島谷　真梨

大学院４年 島谷　真梨　様は，学位論文を提出して審査を受ける要件を満たしていた．

2023年12月4日学位審査員３人との面談時の議論内容やその後の質疑・助言に対する迅速な論文修正，骨リモデリングに関与する細胞群と組織酵素について口頭試験結果から，学位に値する知識・学力を満たしているものと評価した．

今後はヒト成人後期に相当する動物を使用しての実験実施とHE染色標本作製技術の向上を期待したい．